

石見銀山につづく山峡の石造アーチ橋（２） —乙立町啞谷川の石造アーチ橋—

高橋 悟

石見銀山につづく山峡の石造アーチ橋の二つ目として出雲市乙立町の啞谷川暗渠について石見銀山そして石見銀山につづく山峡の石造アーチの一つである築立暗渠で明らかになった事、明治時代中・後期の島根の道路状況などを基に、啞谷川暗渠の特性、さらには、啞谷川暗渠と呼ばれる石造アーチ橋を検討する過程の中で生じた疑問点としてのなぜ出雲と石見の境を流れる神戸川の山峡の乙立地域に石造アーチ橋が作られたのか、なぜ啞谷川暗渠が石造アーチ形式で作られたのか、その材料の石材はどのように調達されたのか、などの点から「啞谷川暗渠」を検討した。その結果次の事が明らかになった。

１）啞谷川暗渠も築立暗渠同様、木材と石材しか使用できない橋作りから近代的橋作りへの過渡期の橋で石材の利点を有効に活用した橋（暗渠）である。

２）乙立地域に石造アーチ橋を含む道路が作られた理由として、江戸以前の道は最短距離を優先とする道で、車、荷車などを通す本格的な地方道のルートとしては不向きとなり、これまでの要路は活用できず、田代から若干ルートを左にふり、乙立の中心の田代から布智村へ通じる保知石道のルートが選ばれたものと推察する。

３）啞谷川暗渠のような石造アーチ形式の橋が採用されたのは場所として山の水が常時流れ、昼間でも薄暗い谷底にある事から腐食に強い石材が橋の材料として選ばれ、石の暗渠（橋）を作るとすれば圧縮力のみで石造アーチ構造形式とすることが最も得策で強固な石造アーチ橋を作ることができるためである。さらに啞谷川は河川勾配がやや急であり流木、洪水、山津波などが懸念されるため、石造アーチ形式であれば構造的に強固であるとともに流下する水は啞谷川暗渠断面全体で流れ、洪水時も含め常に暗渠の機能を発揮できるためでもある。

４）乙立地域は岩山が多く、良質の石山がいくつか存在し、多量な切石を供給できる。石材使用時、石材の運搬が最大の問題になるが啞谷川暗渠建設現場近くには神戸川を利用して石を運べる明谷石の石山があり、この明谷石が利用されたと推測できた。

なお、内容の細部について興味のある方は現在投稿中の「郷土石見」の内容をご期待ください。



窪谷川暗渠上流側



窪谷川暗渠下流側

出雲市乙立町窪谷川暗渠図